教 授　**阿部　公彦**　ABE, Masahiko

1. 略歴

1985 年 3 月　静岡県静岡聖光学院高等学校卒業
1985 年 4 月　東京大学教養学部文科三類入学
1989 年 3 月　同　文学部英語英米文学科専修課程卒業
1989 年 4 月　東京大学大学院人文科学研究科（英語英米文学専攻）入学
1992 年 3 月　同　修士課程修了・修士（文学）
1993 年 10 月　連合王国ケンブリッジ大学大学院博士課程入学（英米文学専攻）
1997 年 5 月　同博士課程修了　博士号取得（文学）
タイトル：‘Wallace Stevens and the Aesthetic of Boredom’
1992 年 4 月　東京大学文学部英語英米文学科助手
1993 年 4 月　帝京大学文学部助手
1997 年 4 月　帝京大学文学部専任講師
2001 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

英米文学

b 研究課題

英語圏の詩や小説の研究を中心とする。個々の作品の緻密な解釈と、作品を作品たらしめる力学の解明に向けた努力を研究の中心としつつ、同時に、「なぜ詩でなければならないか？」「なぜ小説なのか？」という素朴な疑問との取り組みをも課題とする。詩や小説を自足的なジャンルとみなすのではなく、「問答形式」「ポライトネス」「言語運用能力」「事務能力」「胃弱」といった周辺テーマとからめた研究を行う。

c 概要と自己評価

概要

2018 年度から 2019 年度にかけては、引き続きポライトネス研究をすすめ、詩や小説の語り手が読者とどのような人間関係を築こうとしているかという疑問を足がかりに、語りの作法構築の問題を考察した。

自己評価

ポライトネスへの注目を出発点にした文学研究はまだ一般的にも広がりを見せているとは言えないので、今後も協同研究のような形でネットワークを広げ、より広範にわかる対象をとりあげながら理論の洗練をめざしたい。また「凝視」の研究の延長線上として、「共視」や「錯視」「注意散漫」といった類似テーマの研究も引き続き行う予定である。

d 主要業績

⑴ 著書

編著、阿部公彦　飯田橋文学界、『現代作家アーカイブ３――自身の創作活動を語る』、東京大学出版会、2018.2
単著、阿部公彦、『NHK　100 分 de 名著　『夏目漱石スペシャル』』、NHK 出版、2019.2

⑵ 論文

阿部公彦、「小川洋子の不安」、『すばる』、2018.4 月号、174-85 頁、2018.3
阿部公彦、「主観共有の魅惑――フォークナーから谷崎潤一郎、今村夏子まで」、『フォークナー』、20 号、97-112 頁、2018.5
Masahiko Abe、"Influence of English Literature and Language on Ôe Kenzaburô, Murakami Haruki、*Oxford Research Encyclopedia of Literature*、2019.3
阿部公彦、「『読解力が危機だ！』論が迷走するのはなぜか？――『読めていない』の真相をさぐる」、『現代思想』、2019.5 月号、136-54 頁、2019.4

⑶ 書評

藤野可織『ドレス』、河出書房新社、『すばる』、2018.2 月号、340-41 頁、2018
本谷有希子『生きてるだけで、愛』、新潮文庫、『神奈川新聞』、2018.1

加藤秀行『海亀たち』、新潮社、『波』、2018.1
トマス・ハーディ『テス』、ちくま文庫、『週刊読書人』、2018.5 月 18 日号、4 頁
小山田浩子『庭』、新潮社、『すばる』、6 月号、pp.346-47、2018.5
町田康『湖畔の愛』、新潮社、『週刊現代』、5 月 19 日号、107 頁、2018.5
今村夏子「白いセーター」、『神奈川新聞』、7 頁、2018.7
北条裕子「美しい顔」、太田靖久「うみまち」、辻原登「月も隈なきは」、木村友祐「生きものとして狂うこと」、『共同通信』（各地方紙）、2018.7
西村賢太「羅針盤は壊れても」、古市憲寿「平成くん、さようなら」、鴻池留衣「ジャップ・ン・ロール・ヒーロー」、近本洋一「括弧に入れられた『心』」、『共同通信』（各地方紙）、2018.8
柴崎友香『公園へ行かないか？　火曜日に』、新潮社、『群像』、10 月号、358-59 頁、2018.9
吉田修一『国宝』（上・青春編／下・花道編）、『週刊現代』、29 号、115 頁、2018.9
石井遊佳「象牛」、石田千「鳥居」、紗倉まな「春、死なん」、『共同通信』（各地方紙）、2018.9
森鴎外『渋江抽斎』、『神奈川新聞』、11 頁、2018.9
熊野純彦『本居宣長』、三国美千代「いかれころ」、木村紅美「わたしの拾った男」、日上秀之「はんぷくするもの」、『共同通信』（各地方紙）、2018.10
吉村萬壱『前世は兎』、集英社、『週刊文春』、2018.12.27
金原ひとみ「ストロングゼロ」、宮内悠介「ローパス・フィルター」、笙野頼子「返信を、待っていた」、西加奈子「私に会いたい」、沼田真佑「陶片」、帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ　答えの出ない事態に耐える力』、『共同通信』（各地方紙）、2018.12
マーティン・エドワーズ『探偵小説の黄金時代』、国書刊行会、『日本経済新聞』、2018.12.26 夕刊、4 頁
辻原登『不意撃ち』、河出書房出版社、『文学界』、2019.2 月号、290-91 頁、2019.1
志賀直哉「城の崎にて」、『神奈川新聞』、2019.1.13 朝刊、11 頁
佐伯一麦「ななかまど、ローワンツリー」、赤井浩太「日本語ラップ　feat.平岡正明」、青木淳悟「憧れの世界」、『共同通信』（各地方紙）、2019.1
川崎長太郎『鳳仙花』、『神奈川新聞』、2019.6.30
竹村はるみ『グロリアーナの祝祭』、江田孝臣『エミリ・ディキンスンを理詰めで読む』、山崎光夫『胃弱・癇癪・夏目漱石』、西元直子『くりかえしあらわれる火』、鴻巣友季子『翻訳って何だろう？』、「みすず」、1／2 月号、33 頁、2019.2
鴻池留衣『ジャップ・ン・ロール・ヒーロー』、新潮社、『すばる』、3 月号、404-5 頁、2019.2
川上未映子「夏物語（前編）」、吉本ばなな「ミトンとふびん」、『ユリイカ』2 月号（「よしもとばなな特集」）、宮下遼「青痣」、『共同通信』（各地方紙）、2019.2
今村夏子『父と私の桜尾通り商店街』・「むらさきのスカートの女」、町屋良平「ショパンゾンビ・コンテスタント」、橋本治「『近未来』としての平成」、石橋正孝「絵画・推理・歴史」、『共同通信』（各地方紙）、2019.3
夏目漱石『明暗』、『神奈川新聞』、2019.4.7 朝刊、11 頁
絲山秋子「袋小路の男」、『読売新聞』、2019.4.14 朝刊、11 頁
古谷田奈月「神前酔狂宴」、佐伯一麦『山海記（さんげいき）』、笙野頼子「会いに行って」、保坂和志・郡司ペギオ幸男対談「芸術を憧れる哲学」、奥野沙世子「逃げ水は街の血潮」、『共同通信』（各地方紙）、2019.4
デイヴィッド・ピース『X という患者』、『日本経済新聞』、2019.5.11 朝刊、30 頁
ロバート・キャンベル『井上陽水英訳詞集』、木戸岳彦『不在の歌』、島田雅彦「スノードロップ」、古市憲寿「百の夜は跳ねて」、石倉真帆「そこどけあほが通るさかい」、『共同通信』（各地方紙）、2019.5
羽田圭介『ポルシェ太朗』、河出書房新社、『新潮』、2019.7 月号、202 頁、2019.6
柴崎友香『ビリジアン』、河出文庫、『読売新聞』、2019.6.9 朝刊
佐伯一麦『山海記』、講談社、『読書人』、2019.6 月 21 日号、5 頁
アラン・シリトー『長距離走者の孤独』、『日本経済新聞』、2019.6 月 23 日号
田中慎弥『ひよこ太陽』、新潮社、『すばる』、2019.8 月号、340-41 頁、2019.7

⑷　解説

阿部公彦、「ほんとうのエリオットはどこに？」、T・S・エリオット　深瀬基寛訳『荒地／文化の定義のための覚書』（中公文庫）、324-32 頁、2018.4
阿部公彦、「ばっさ、ばっさと見る人」、武田百合子『新版　犬が星見た』（中公文庫）、409-16 頁、2018.10
阿部公彦、「解説」、吉田修一『橋を渡る』（文春文庫）、512-19 頁、2019.2

⑸　学会発表

国際、阿部公彦、「The Power of 'Child-like Language and Stories'」、2018 Pyeongchang Humanities Forum、Pyeongchang, Seoul 平昌　ソウル、2018.1.20

国内、阿部公彦、「スピーキングテストでスピーキング力はあがるか」、「大学入学者選抜における英語試験のあり方をめぐって」、東京大学本郷キャンパス、2018.2.10

国際、阿部公彦、”Humanities in Asia in the 21st Century”（アジアにおける 21 世紀の人文学を考える）、東京大学駒場キャンパス　18 号館コラボレーションルーム１、2018.6.1

国内、阿部公彦、「この英語騒動から見えてくること」、関西英語教育学会 2018 年度（第 23 回）研究大会、関西国際大学・尼崎キャンパス、2018.6.9

国内、阿部公彦、「小説家の英語――大江健三郎は何を受け取ったか」、中四国アメリカ文学会第 47 回大会、島根大学、2018.6.16

国内、阿部公彦、「近代小説の「のぞき」と「不機嫌」――ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』を中心に」、日本オースティン協会第 12 回大会、大妻女子大学、2018.6.30

国際、Masahiko Abe、“Teacher Education and Professional Training” Panel Discussion with Dr. Rod Ellis, Dr. David Nunan, Dr. Yuji Nakamura & Dr. Masahiko Abe. Moderator: Dr. Hayo Reinders」、2018 Anaheim University TESOL Residential Session & MECTokyo、Anaheim University、2018.8.4

国内、阿部公彦、「現代作家アーカイブ 高橋睦郎さんに聞く」、2018.8.20

国際、Masahiko Abe、「セクション「伝統」（17 日）:「日本語と声の文化」、セクション「心の連帯」（18 日）: ディスカッサント」、東アジア文学フォーラム、ソウル光化門教保ビル 23 階教保コンベンションホール、2018.10.17

国内、阿部公彦、「〈英詩はわからない〉が教えてくれること」、東京大学ホームカミングデイ　文学部企画「人文学の最前線」、東京大学文学部法文二号館一番大教室、2018.10.20

国内、阿部公彦、「「注意散漫」で読むイギリス小説――『ハワーズ・エンド』に「らくがき」するとわかること」、日本英文学会九州支部大会、九州女子大学、2018.10.21

国内、阿部公彦、「英語教育をダメにする「売り文句」　ワースト３」、日本英文学会関東支部　秋季大会　シンポジウム、早稲田大学　36 号館 3 階、2018.10.27

国際、阿部公彦、「シンポジウム等　15 日（作家会議 10:00-12:00）、16 日（10:00-11:30）」、広州国際文学週、広州　ホテル広東　広州外語外貿大学、2018.12.14

国際、阿部公彦、「CEFR の福と災い」（シンポジウム３　「CEFR と入学試験をめぐって」）、国際研究集会 2019「CEFR の理念と現実」、京都大学人間環境学研究科　地下講義室吉田キャンパス、2019.3.5

国内、阿部公彦、「ディキンソンはどこまでまじめなのか」、日本エミリィ・ディキンソン協会第 34 回大会シンポジウム「ホイットマンとディキンソン」、2019.6.15

国内、阿部公彦、「「らくがき式読書法」から「小説の文体」へ」（シンポジウム「文体とは何か？多角的に考える」）、日本文体論学会第 115 回大会、大東文化大学 1 号館 102 教室、2019.6.23

国内、阿部公彦、「文学とポライトネス」（シンポジウム「近代・英語・ポライトネス―近代社会で（イン）ポライトに生きること―」）、近代英語協会第 36 回大会、明治大学中野キャンパス 311 教室、2019.6.29

3.　主な社会活動

⑴　他機関での講義等

南京大学　千林キャンパス、「近代小説と「胃腸的想像力」」、2018.3

日比谷カレッジ・ワークショップ、「これなら読める〝名作〟！「らくがき式」読書のススメ」、2018.3

特別講演、成蹊大学、「なぜ私たちの英語は「失敗」するのか？」、2018.7

セミナー、立教大学、「プルーストを読破する＠立教　第 6 回」、2018.8

特別講演、駿台予備学校、「英語学習に立ちはだかる「日本語の壁」――なぜ、もうちょいリスニングに時間をかけるべきなのか」、2018.9

特別講演、桐光学園、「講演英語の勉強、どこからはじめる？どこまでやる？」、2018.11

特別講演、神戸女学院、「《日本人は英語がしゃべれない》問題について、英文学的見地からいろいろ考えてみる」、2018.11

Tokyo Humanities、"Is Speaking a Skill?"、2018.12

大妻女子大学、「「読解力」とは何か？」、2019.1

⑵　**学会**

国内、日本英文学会、理事、2018.4～2020.3

国内、日本英文学会関東支部、支部長、2018.4～2020.3

国内、日本アメリカ学会、編集委員（英文号）、2018.4～2020.3

国内、日本Ｔ・Ｓ・エリオット協会、委員、2018.4～2020.3

国内、ポエティカ、編集委員、2018.4～2020.3